

旧国鉄宮原線

旧国鉄宮原(みやのはる)線は、大分県九重町の恵良駅から熊本県小国町の肥後小国駅間26.6kmを連絡していた線路でした。35年という工期をかけて昭和29年に開通した線路で、通勤・通学や木材等の搬送に使われましたが、国鉄再建法により赤字路線の廃止が始まり、この宮原線は九州で最初(昭和59年)に廃止になりました。使用した期間はわずか30年でした。

廃止から約24年経った現在では線路こそないものの、町有地として多くのアーチ橋やトンネルなどがそのまま残り、当時の雰囲気を楽しむことができる貴重な遊歩道として利用することができます。宮原-北里間では草刈管理をボランティアが行っており、安心して歩くことができます。

当時のまま残されたトンネルを歩くことができます。入口と出口にそれぞれトンネル内の照明のスイッチがついています。トンネル内には枕木を留めていた釘がところどころに落ちていたり、側面に一人一人分のへこみがあったりと、当時にタイムスリップしたような気分が味わえます。



ここは旧国鉄宮原線の廃線跡でも特に広葉樹の多い区間で、そのほとんどが落葉広葉樹です。特に尾根を切りとおした場所は両側から落葉広葉樹が覆いかぶさっており、秋には美しい紅葉のトンネルを形成します。



谷部の廃線跡は高台に位置しており、そのため見晴らしの良いポイントが多くあります。特に西村周辺と木魂館周辺では里地・里山景観とともに、晴れていると遠く湧蓋山を眺めることができます。



昭和12年～14年頃に造られたコンクリート製アーチ橋が数多く残っており、国の有形文化財に登録されています。幸野川橋梁は、鉄筋の代わりに竹を入れた「竹筋橋」と言われています。



現在は跡地に新しくホームを模したものができており、周辺のマップや地元の収穫物などを直販している「森のきよすく」があります。また、跡地内の階段を降りると北里の集落に出ることができます。



廃線跡ルートは、九州大学との共同プロジェクトの一環で森林浴の効果が測定されており、歩くことで健康が促進されることが明らかになっています。森林浴で気持ちの良い汗を流し、豊富な小国町の温泉につかるのはいかがでしょうか。

廃線跡の沿線には樹高30mを超える針葉樹林もあり、その廃線跡側は枝を残した林衣というめずらしい管理がなされています。そのため見上げると、あたかも空が左右の針葉樹林の緑に切り取られた「空の線路」を形成しているように見えるのです。

一般に広葉樹林に多いと言われる野鳥が、秋には廃線跡の針葉樹林でも多く生息していることが確認されました。ぜひ野鳥のさえずりに耳を澄まして歩いてみて下さい。

ゆうステーション、木魂館の駐車場、トイレをご利用ください。

- 1 自分の出したごみはすべて持ち帰ること。
- 2 喫煙者は必ず携帯灰皿を使用すること。
- 3 動植物を大切にすること。
- 4 住宅等の近くを通る時は、地域の方に迷惑を
かけないように、特に気をつけること。
- 5 陽が暮れ始めたら廃線跡には入らないこと。

遊歩道内では、事故・怪我のないよう十分注意して行動してください。万一事故・怪我が生じた場合、自己責任となることをご承知ください。

発行：小国町役場商工企業促進課
発行日：2018年3月、2009年3月（第2刷）
2018年6月（第3刷）
企画制作：重松敏則、朝廣和夫（九州大学大学院
芸術工学研究院）；梶原領太、高丘敦子（九州大
学大学院芸術工学府芸術工学専攻）
デザイン：伊原久裕（九州大学大学院芸術工学研
究院）；坪田広誠、後藤萌、元松翠（九州大学大
学院芸術工学府芸術工学専攻）
事業支援：熊本県地域振興総合補助金事業